

日本での就職活動には諸外国と比べてかなりの違いがあります。企業は学生を見極めようと工夫し選考を進めます。そのため、様々な選考の対策が必要だったり、日本語で多数のエントリーシートを書く負担が重かったり、なかなか選考に通らないこともあります。就職先を決めるためには、**学部3年・修士課程1年**から早めに準備を進めましょう。

準備

情報収集



大量の情報に惑わされずに、取捨選択していくことが重要。インターネットや就職対策本ばかりに頼らず、先輩や友人に積極的に相談しよう。

自己分析



ひとりで机の上で考えるより、人と話しながら気づきを得ていくことが有効。過去の経験をふり返ったり、周りの人に自分の特徴を聞いてみましょう。

業界企業研究



広く浅く調べるのではなく、自分なりの興味・関心に引きつけながら調べる。卒業生訪問やHP・採用パンフレットを丁寧に読み込むことも重要。

卒業生訪問



日本語で社会人と話す練習になる。個別にじっくり話が聞けるので、日本企業への理解を深める機会になる。日本人の卒業生に遠慮せずお願いしよう。

選考

インターンシップ

日本企業の職場を知り、「自分に合うのか、働けそうか」を考える機会になる。就職先選びの基準を見いだすヒントが得られる。選考のファーストステップになることも多い。

説明会

業界や企業を絞りすぎずに見て回り、自分の就職先を選ぶ基準を明確にする。興味のある業界以外にも参加して新たな興味を発見する。毎年学内で、約200社が集まる会社説明会を開催するので、参加しよう。詳細はキャリア支援室のお知らせを確認する。

応募先の選び方

大手有名企業や留学生の採用実績がある企業の場合、競争率は非常に高いので要注意。大手のグループ企業や準大手企業にも積極的に目を向けよう。自分の「就職先選びの基準」を明確にしたうえで応募先を決めることが重要。

エントリー（ESの提出）

できれば**30社程度はエントリーしよう**。ESは日本語の正確さよりも、「何をどのように伝えるか」が重要。必ず一度は**第三者に見てもらい**内容を見直す。ESでは、ひとりで頑張った学業の経験談だけでなく、周りとの関わりの中で得た経験談を優先する。

Webテスト

日本語の問題文を理解することに時間を要す留学生が多い。慣れるためにも、対策本である程度練習しておく。キャリア支援室にある、貸出図書対策本を活用しよう。志望度の高くない企業で早めに実践練習をした先輩が多い。

グループディスカッション

日本人学生の議論についていけず、苦手とする留学生が多い。重要なのは、発言量や目立つことではない。**チームプレイ**や**課題解決の力**が評価されることに留意する。ほかの人の意見を否定したり安易に妥協したりすることは要注意。

面接

日本語を正しく話すことや敬語・マナーに気を取られないようにする。重要なのは、相手と「**会話のキャッチボール**」をすること。質問内容そのものではなく、質問の意図を汲み取り、それに応じて答えるようにする。**短く、わかりやすく**答える。

日本企業が留学生を採用する目的・求める能力

企業活動のグローバル化が進み、国籍を問わず優秀な人材を確保したいと考える企業が増え、外国人留学生の採用は確実に増加しています。企業は、海外事業の拡大のために、日本と海外の文化的背景を理解した、**バイタリティー**がある留学生を求めています。



日本企業の多くは、ESやWebテスト、面接を日本語で行うことによって、留学生の日本語力を評価します。ビジネス場面で使えるレベルの日本語力の獲得のために、日常生活やインターンシップ、卒業生訪問などを活用して、丁寧な言葉遣いで会話する経験を積みましょう。

企業は、海外（出身国）との懸け橋になる人材として留学生の採用を求めています。出身国と日本の事情に詳しく、日本との良好な関係構築への貢献を期待しています。さらに企業は、多様な背景を持つ人材を取り入れ、組織を活性化することを目的として、文化背景の異なる留学生を求めています。

就職活動のポイント

POINT

1

「大手有名企業」にとらわれず、自分の「軸」を明確にしよう！

就職先選びの基準になる「軸」を明確にしましょう。留学生がよく考える「グローバルに活躍したい」「成長スピードが速い企業で働きたい」「専門知識や語学力を活かしたい」といった「自分視点」だけではなく、「どのようなビジネス（商品・サービス）によって、社会や顧客・生活者にどのような価値を提供したいのか」という「企業視点」も大切にしましょう。

POINT

2

まわりの人に積極的に相談してみよう！

留学生は就職活動で苦労しやすいからこそ、積極的に周りの人の意見やアドバイスを求めましょう。「相談は自分の成長につながる」と考えてください。相談相手は留学生だけでなく日本人もいるとよいです。内定者の先輩や卒業生はもちろんのこと、キャリア支援室のアドバイザーとのキャリア相談も積極的に活用してください。

POINT

3

「日本人のように」ではなく、「自分らしく」を大切に！

企業は日本人とは違う視点や考え方をもって活躍してくれることを期待しているため、「日本人と同じように考え、行動しなければならない」とする必要はありません。また「外国人としての強みを発揮しなければならない」と考えすぎる必要もありません。経験してきたことや学んできたこと、将来チャレンジしてみたいことなど、**自分自身の志向や価値観を大切に**してください。